

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、

ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

(財)ベターリビングが優良住宅部品認定制度によって、品質、性能、アフターサービスなどに優れた住宅部品を厳重な審査に基づき認定された住宅部品です。

さらに保証責任保険と賠償責任保険が制度化されていますので、安心してご利用できます。

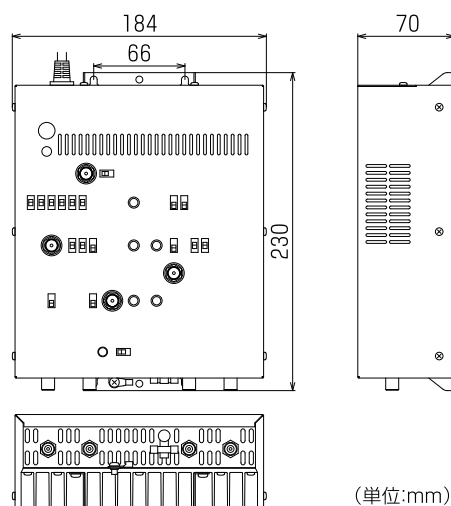


テレビ共同受信機器

共同受信用双方向増幅器

上り10~55MHz、下り70~770MHz、CS/BS-IF1000~2602MHz増幅用 電源内蔵形 屋内用

CATVCSBS2WH1 (BL型式 CATV・CS・BS-2W-H)



(単位:mm)

目次

取扱説明書	
製品の特長	1
お取り扱い上のご注意	1
安全上のご注意	1~2
主な性能	2
各部の名称	2
メンテナンス	2
施工説明書	
設置上のご注意	3
使用部品	3
調整方法	3~8
取付方法	8
保証について	8
お問い合わせ	8

製品の特長

- ・双方向CATV(上り10~55MHz、下り70~770MHz)、CS/BS-IF(1000~2602MHz)伝送の棟内分配用増幅器として最適です。
- ・下り増幅部には高規格IC、上り増幅部にはプッシュプル回路、CS/BS-IF増幅部には高規格FETを採用し、上りTV4波、下りTV74波、BS12波、CS24波の高出力伝送ができます。
- ・CATV下り入力EQ(TILT、逆TILT)スイッチ、CATV下り入力EQ(450MHz)スイッチ、CATV下りTILTスイッチ、CATV上りTILTボリューム、CATV上り出力ATTスイッチ、CS/BS-IF TILTボリュームを内蔵し、また入力ATTスイッチ、利得調整ボリュームをCATV上り・CATV下り・CS/BS-IF増幅部とも内蔵していますので、状況に応じた繊細な調整が可能です。
- ・CATV下り・CS/BS-IF混合入力端子から、コンバータ用電源(DC+15V最大6W)を送出できます。
- ・上り帯域を使用しない場合には、CATV上り帯域スイッチでカットして下り・CS/BS-IF増幅器として使用できます。
- ・誘導雷避雷回路内蔵で、高周波増幅回路・電源回路ともに安心です。また、 $\pm 15\text{kV} \cdot 1.2/50\mu\text{s}$ のサージ電圧に対しても優れた保護性能を発揮します。
- ・大形放熱板を兼ねたアルミ合金製シャーシの採用により、放熱効果に優れています。また、電波漏洩対策も万全です。

お取り扱い上のご注意

- ・テレビ受信関連工事には、技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。
- ・この増幅器を屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容箱などに収容してください。
- ・取り付けに用いる以外のネジを回したり製品本体のカバーを開けて回路部品に手を触れたりしないでください。
- ・通風孔などをふさいだり、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだりしないでください。
- ・電源の供給は、すべての同軸ケーブルが完全に接続されていることを確認した後に行ってください。
- ・スイッチを切り換える場合、切替操作を数回行い、スイッチ接点部の活性化(クリーニング)をしてください。
- ・使用時、増幅器に異常が生じた場合は、ただちに電源の供給を止め、原因を確かめてください。
- ・上り伝送システムでは流合雑音に注意して設計してください。

安全上のご注意

- ⚠ 記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
- 🚫 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
- 🔌 ● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

この内容を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ・表示された電源電圧(AC100V 50/60Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因となります。



- ・電源を供給する前に、アース端子を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6mm以上の軟銅線で、必ず接地してください。



取扱説明書

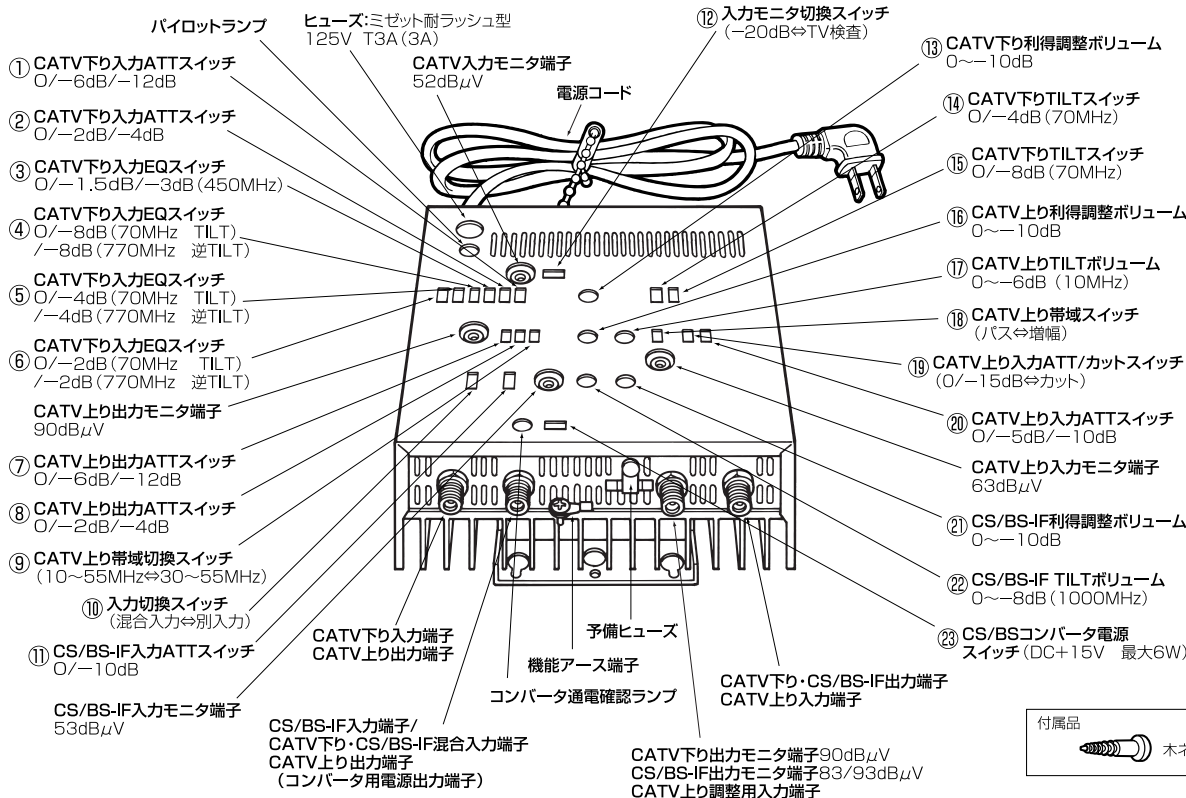
- この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがあります。途中には電流通過形機器以外は絶対に挿入しないでください。また、電流通過形機器を挿入する場合は通電端子をよく確かめてお使いください。もし、電流非通過形機器を挿入しますと、回路やケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。
- この製品を分解したり、修理や改造はしないでください。感電やけがの原因や、性能維持できなくなり故障の原因となります。
- ヒューズが切れた時は、原因を確かめてから同一規格の容量、形状のものと交換してください。ヒューズ交換時は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 取付ネジやボルト、接栓は、締め付け力（トルク）に指示がある場合はその力（トルク）で締め付け、堅固に取り付け固定してください。落下や破損して、感電やけが、故障の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、この製品には触れないでください。感電の原因となります。



主な性能									
品 名		共同受信用双方向増幅器			品 番 (BL型式)		CATVCSBS2WH1 (CATV・CS・BS-2W-H)		
周 波 数 帯 域 (MHz)	10~55 (30~55)	70~770	1000~2602	周 波 数 帯 域 (MHz)	10~55 (30~55)	70~770	1000~2602		
最大伝送容量 (ch)	TV2 DATA	TV74 デジタル※	BS12 CS24	雑 音 指 数 (dB)	10以下				
標準入力レベル(dBμV)	80	72	73	電 圧 定 在 波 比	2.0以下			2.5以下	
標準利得 (dB)	30以上(増幅時)、0~7(パシ時)	38以上	30/40以上	相 互 変 調 (dB)	IM2	-60以下	-63以下	-31以下	
利得調整範囲 (dB)	0~10以上連続可変				IM3	-70以下	-	-63以下	
定格出力レベル(dBμV)	110(フラット出力)	110(フラット出力)	103/113 (1000/2602MHz)	C T B (dB)	-	-60以下	-		
入 力 モ ニ タ (dB)	-20	-20/-12	-20	利 得 安 定 度 (dB)	±2.0以内			±3.0以内	
出 力 モ ニ タ (dB)	-20		-20	ハ ム 変 調 (dB)	-60以下				
入力EQ (TILT) (dB)	-	-2、-4、-8 (70MHz値)	-	入出力インピーダンス(Ω)	75				
入力EQ (逆TILT) (dB)	-	-2、-4、-8 (770MHz値)	-	耐 衝 撃 波 試 験	入出力端子 ±15kV (1.2/50μs)				
入 力 E Q (dB)	-	-1.5/-3 (450MHz値)	-		電 源 端 子 ±15kV (1.2/50μs)				
入 力 A T T (dB)	-5/-10、-15	-2/-4、-6/-12	-10	使用温度範囲 (℃)	-10~+40				
出 力 A T T (dB)	-2/-4、-6/-12	-	-	コンバータ供給電源	DC15V 6W				
T I L T (dB)	0~6以上 (10MHz値)	-4、-8 (70MHz値)	0~8以上 (1000MHz値)	電 源 (V)	AC100 (50/60Hz)				
伝送帯域内周波数特性 (dB)	全帯域で ±1.0以内	全帯域で ±2.0以内	任意の34.5MHzで ±1.0以内、チルト直線に対し全帯域で ±2.5以内	消 費 電 力 (W)	32 (コンバータ用電源6W送出時40)				
				外 形 寸 法 (mm)	230 (H) ×184 (W) ×70 (D)				
				質 量 (kg)	1.9				
※デジタルは-10dB適用									

規格および外観は改良により、変更させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

各部の名称



※①~②③のスイッチ、ボリューム・端子の詳細は対応する番号の操作説明をご覧ください。

メンテナンス

いつまでも美しいテレビ映像をお楽しみいただくために、1年に1回は専門業者に保守点検を依頼してください。

施工説明書

ご使用の前にこの施工説明書をよく読み、正しく施工してください。また施工前に製品の外観に異常がないか、付属品が正しく入っているか確認してください。(この製品は、有線テレビジョン放送法等の法規が適用されます。)

- 当社の定める施工要領を逸脱しない据付工事に不具合(瑕疵)が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行なった場合、BLマークの証紙の貼付(又は刻印等)がされている部品については、財団法人ベターリビングのBL保険制度に基づき保険金が支給されます。
- BL保険制度や当住宅部品の施工要領の詳細については、財団法人ベターリビングのホームページ(<http://www.cbl.or.jp/>)をご覧ください。なお、BL保険制度に関する質問は、財団法人ベターリビング(Tel 03-5211-0559)でもお受け致します。

設置上のご注意

次のような場所に設置しないでください。

- 屋外や水などがかかる場所
- 不安定な場所
- 高所など足場の悪い場所
- 直射日光の当たる場所や高温になる場所
- 有毒ガスの発生する場所
- 天井や熱のこもる場所

屋外で使用する時の収容箱は防雨、放熱処理を施した外形寸法600×800×250mm以上の大きさのものを使用してください。

アース端子を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6mm以上の軟銅線で、必ず接地してください。

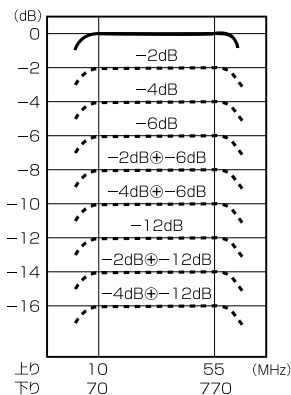
必ず入出力端子が下向きになるように増幅器本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。

使用部品

- ヒューズはミゼット耐ラッシュ型 125V T3A (3A) をご使用ください。
- 同軸ケーブルは、S-5C-FB、S-7C-FB相当以上の性能を有するものをご使用ください。
- 接栓は、使用する同軸ケーブルに適したC15形のF形接栓をご使用ください。

調整方法

<ATTスイッチの操作>



①②

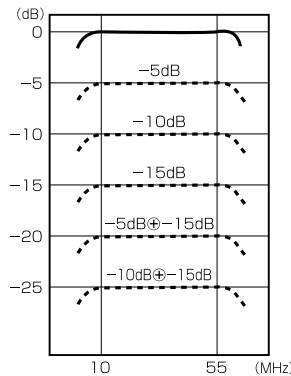
- CATV下り入力ATTスイッチを-2dB/-4dB/-6dB/-12dB側にスライドさせると70~770MHzがフラットに減衰します。

下り入力ATTスイッチの操作を組み合わせると0dBから-16dBまで2dBステップの設定が可能です。

⑦⑧

- CATV上り出力ATTスイッチを-2dB/-4dB/-6dB/-12dB側にスライドさせると10~55MHzがフラットに減衰します。(この時、定格出力レベルは選択したATTの加算量だけさがります。)

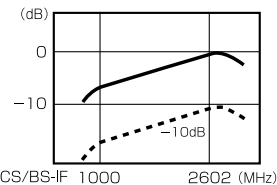
上り出力ATTスイッチの操作を組み合わせると0dBから-16dBまで2dBステップの設定が可能です。



⑯⑳

- CATV上り入力ATTスイッチを-5dB/-10dB/-15dB側にスライドさせると10~55MHzがフラットに減衰します。

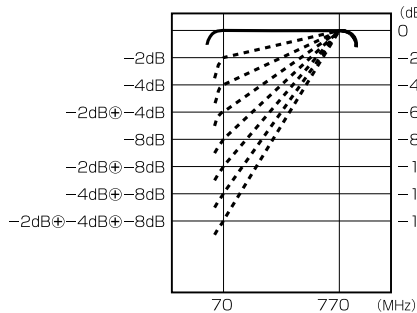
上り入力ATTスイッチの操作を組み合わせると0dBから-25dBまで5dBステップの設定が可能です。



㉑

- CS/BS-IF入力ATTスイッチを-10dB側にスライドさせると、1000~2602MHzがフラットに減衰します。

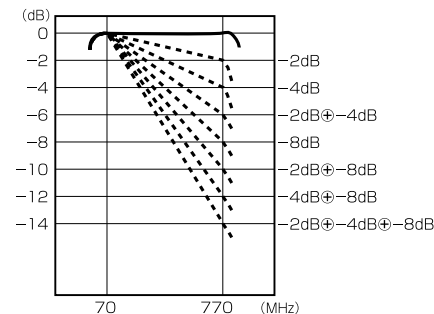
<CATV下り入力EQスイッチ(下りTILTスイッチ)の操作>



④⑤⑥

- CATV下り入力EQ (TILT) スwitchを-2dB/-4dB/-8dB側にスライドさせると、770MHz付近を基準として70MHzの利得が減衰します。

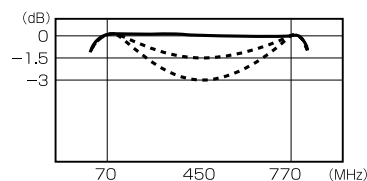
下り入力EQ スwitchの操作を組み合わせると0dBから-14dBまで2dBステップの設定が可能です。



④⑤⑥

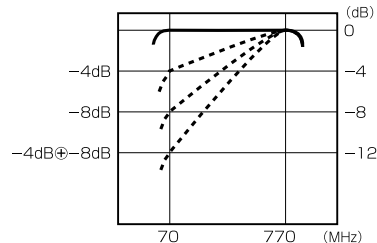
- CATV下り入力EQ (逆TILT) スwitchを-2dB/-4dB/-8dB側にスライドさせると、70MHz付近を基準として770MHzの利得が減衰します。

下り入力EQ スwitchの操作を組み合わせると0dBから-14dBまで2dBステップの設定が可能です。



③

- CATV下り入力EQ (450MHz) スwitchを-1.5dB/-3dB側にスライドさせると70MHz、770MHz付近を基準として450MHzの利得が1.5dB/3dB減衰します。

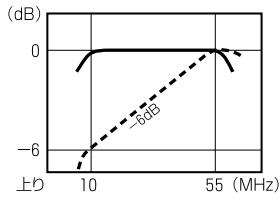


⑭⑮

- CATV下りTILT スwitchを-4dB/-8dB側にスライドさせると、770MHz付近を基準として70MHzの利得が減衰します。

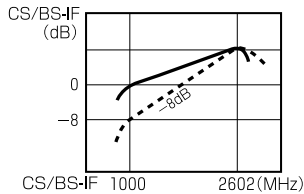
下りTILT スwitchの操作を組み合わせると、0dBから-12dBまで4dBステップの設定が可能です。

<CATV上りTILTボリュームの操作>



- ①⑦
- CATV上りTILTボリュームを反時計方向いっぱいに回し切ると55MHz付近を基準にして10MHzの利得が6dB減衰します。

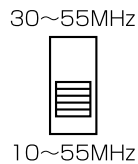
<CS/BS-IF TILTボリュームの操作>



- ②②
- CS/BS-IF TILTボリュームを反時計方向いっぱいに回しきると2602MHz付近を基準にして、1000MHzの利得が8dB減衰します。

<CATV上り帯域切換スイッチの操作>

- ⑨
- 上り伝送周波数10～55MHzをスイッチ切り換えにより30～55MHzにすることができます。流合雑音を軽減するために30MHzより低い周波数帯域を使用しない場合、30～55MHz側に切り換えてください。



<CATV下り入力モニタ切換スイッチの操作>

- ⑫
- 入力モニタ切換スイッチを操作することにより、入力モニタ値を-20dBと-12dB (TV検査) に切り換えることができます。
 - TV検査 (-12dB) は画質を確認する場合に使用してください。



※入力モニタ切換スイッチは通常運用時は-20dB側に設定してください。

<CATV上り増幅／パス切換スイッチの操作－CATV上り帯域の増幅>

- ⑮
- 上り帯域 (増幅/パス) スwitchを増幅側にスライドさせると、利得30dBの増幅器として動作します。



<CATV上り増幅／パス切換スイッチの操作－CATV上り帯域のパス>

- ⑮
- 上り帯域 (増幅/パス) スwitchをパス側にスライドさせると、パス回路 (挿入損失0～-7dB) として動作します。

※パス回路設定時 (パス側) に機能するのは、スイッチ⑮⑯と上り入力モニタ端子、上り調整用入力端子です。(スイッチ⑦⑧⑨とボリューム⑮⑯、上り出力モニタ端子は機能しません。)



<利得調整ボリュームの操作>

⑬⑯⑰

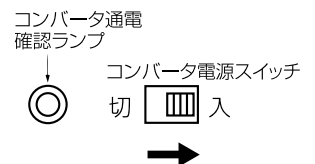
- 利得調整ボリュームは反時計方向にいっぱいに回しきった時、利得最小となります。出力モニタ端子にスペクトラムアナライザ (電界強度測定器など) を接続し、このボリュームにより所定のレベルに合わせてください。
- 出力モニタ端子は、出力端子に対して、20dB低いレベル値を示します。



<CS・BSコンバータ電源スイッチの操作>

⑳

- この製品からCS・BSコンバータ用電源 (DC+15V最大6W) を供給する場合は、スイッチを矢印の方向にスライドしてください。
- CS・BSコンバータを動作させるための重畳電源を供給できる端子はCATV下り・CS/BS-IF混合入力端子のみです。
- 電源の供給はCS・BSコンバータへのケーブルの接続を確認した後に行ってください。
- 重畳ラインの機器は必ず電流通過形をご使用ください。
- CS/BSコンバータを重畳電源で動作させる以外の場合に通電しますと事故の原因となりますのでご注意ください。



<CATV上り増幅／パス切換スイッチの操作－CATV上り帯域のカット>

⑰

- 上り帯域を使用しない時は、CATV上り帯域スイッチをカット側に切り換えてください。
- ※上り帯域は内部回路で75Ω終端され、上り帯域 (増幅⇄パス) スwitchは機能しませんのでご注意ください。



調整方法のつづき

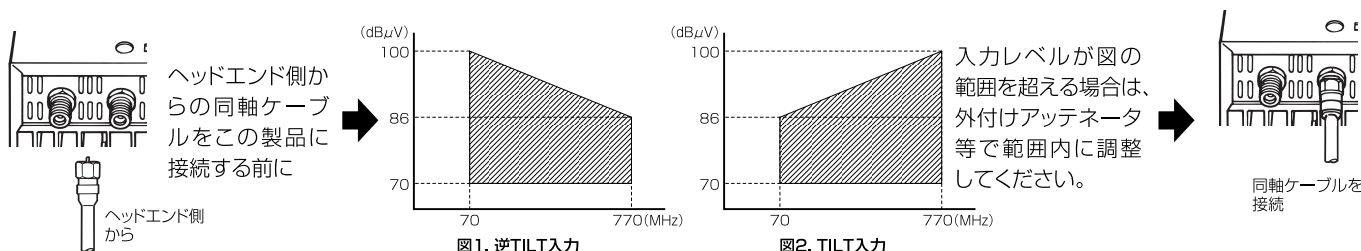
＜CATV下り帯域の調整＞

〔事前確認〕

出荷時には、各スイッチとボリュームはつぎのように設定されていますので、接続時やレベル調整時に切り換え、調整してください。

入力EQスイッチ	TILT (上) 側	EQスイッチ	-3dB (上) 側
入力ATTスイッチ	-4dB、-12dB (上) 側	入力モニタ切換スイッチ	-20dB (左) 側
利得調整ボリューム	-10dB (減衰) 側	TILTスイッチ	-4dB、-8dB (上) 側

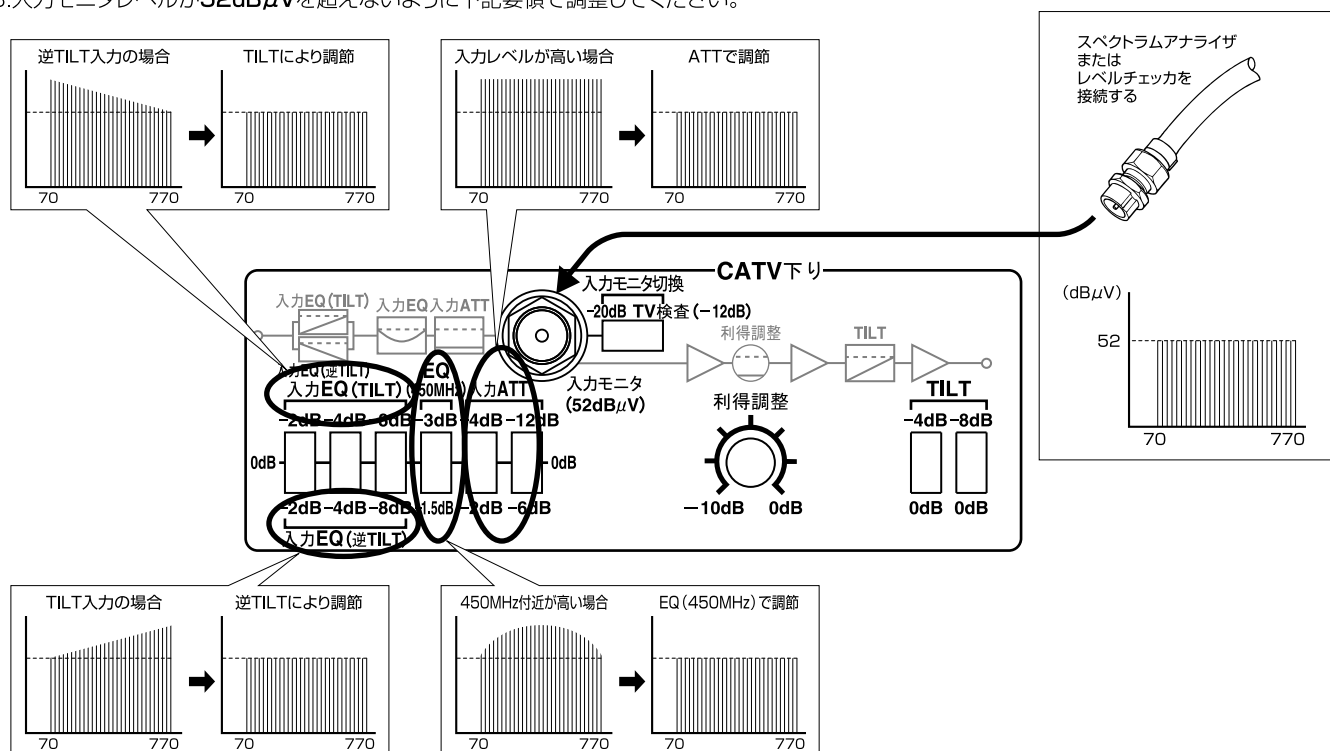
ヘッドエンド側からの同軸ケーブルをこの製品に接続する前に、この製品への入力レベルが図1または図2の範囲内であることを確認してください。
※範囲を超えるレベルを入力すると、故障の原因となる恐れがありますので必ず範囲内で使用してください。



※カスケード接続の場合 後段（端末側）の下り入力モニタレベルが、入力レベル調整機能で調整しきれない場合、前段（ヘッドエンド側）のCATV下り利得調整ボリュームおよびTILTスイッチで調整してください。

〔入力調整〕

1. 出力端子を75Ωで終端し、入力端子にヘッドエンド側からの同軸ケーブルを接続します。
2. スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを下り入力モニタに接続し、入力モニタ切換スイッチが-20dB側であることを確認します。
3. 入力モニタレベルが**52dBμV**を超えないように下記要領で調整してください。



〔出力調整〕

1. スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを下り出力端子に接続します。
 2. 出力レベルが**110dBμV**を超えないように利得調整ボリュームとTILTスイッチで調整してください。
 3. 出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続してください。
 4. 接続後の出力レベルを確認する際は、モニタ端子を利用してください。
- ※デジタル信号は、アナログ信号に比べて、10dB低いレベルで運用してください。
- ※入力モニタ端子は入力レベル調整後のレベルから20dB低いレベル、出力モニタ端子は出力レベルから20dB低いレベルを出力します。
- 定格運用時は、本体に記載されているレベルとなります。
- ※カスケード接続の場合、増幅器の出力レベルは、定格出力レベルより下げて使用してください。
- （一例として、2段カスケードの場合は、出力レベルを定格出力レベルより3dB下げて使用してください。）
- ※カスケード接続の場合前段増幅器の出力レベルは次段増幅器の中で最も入力レベルが低くなるものに合わせて調整を行なってください。
- ※調整に関する詳細については管轄ケーブルテレビ事業者へ確認をお願いします。

調整方法のつづき

＜CS/BS-IF帯域の調整＞

〔事前確認〕

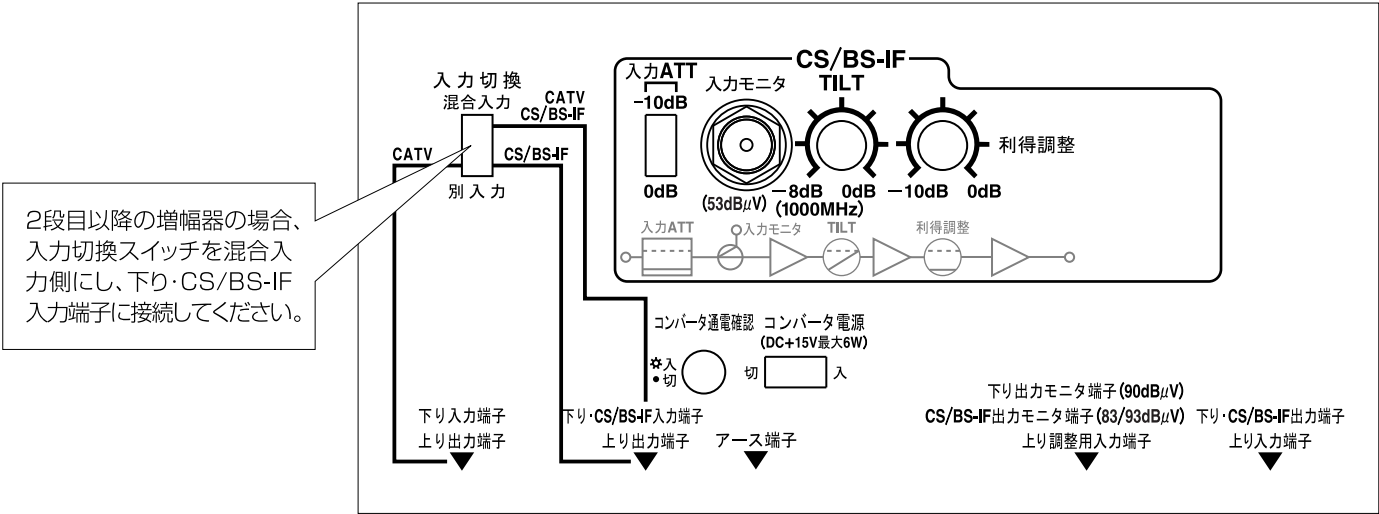
出荷時には、各スイッチとボリュームはつぎのように設定されていますので、接続時やレベル調整時に切り換え、調整してください。

- 入力ATTスイッチ
- 10dB (上) 側
- TILTボリューム
- 8dB (減衰) 側
- 利得調整ボリューム
- 10dB (減衰) 側

CS/BSアンテナ側からこの製品に接続する前に、この製品への入力レベルを測定します。
測定したレベルが**83dB μ V**以上ある場合は外付けアッテネータをご使用ください。
(このとき電源をコンバータへ供給する場合は電流通過形のものをご使用ください)

〔入力調整〕

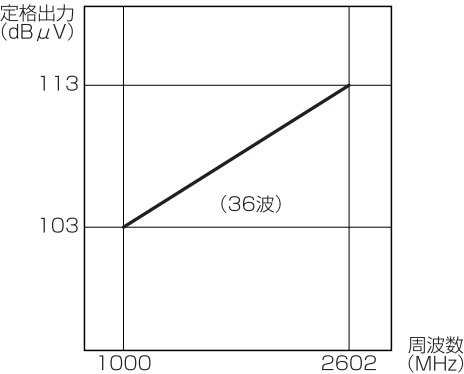
- 1.出力端子を75 Ω で終端し、下り・CS/BS-IF入力端子にアンテナ側からの同軸ケーブルを接続します。
- 2.スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカをCS/BS-IF入力モニタに接続します。
- 3.入力モニタレベルで最も高いレベルが**53dB μ V**を超えないように入力ATTを調整してください。



〔出力調整〕

- 1.スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを下り・CS/BS-IF出力端子に接続します。
- 2.最も高い周波数のチャンネルの出力レベルが**113dB μ V**を超えないよう利得調整ボリュームを調整し、次にBS-IF帯の最も低い周波数のチャンネルの出力レベルが**103dB μ V**以下になるようにTILTボリュームで調整してください。
- 3.出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続してください。
- 4.接続後の出力レベルを確認する際は、モニタ端子を利用してください。
- ※入力モニタ端子は入力レベル調整後のレベルから20dB低いレベル、出力モニタ端子は出力レベルから20dB低いレベルを出力します。
- 定格運用時は、本体に記載されているレベルとなります。
- ※カスケード接続の場合、増幅器の出力レベルは、定格出力レベルより下げて使用してください。
- (一例として、2段カスケードの場合は、出力レベルを定格出力レベルより3dB下げて使用してください。)

CS/BS-IF帯特性図



1000～2602MHzで使用する場合は103/113dB μ Vとなります。

施工説明書

調整方法のつづき

<CATV上り帯域の調整>

〔事前確認〕

出荷時には、各スイッチとボリュームはつづきのように設定されていますので、接続時やレベル調整時に切り換え、調整してください。

入力ATTスイッチ	-10dB (上) 側	上り帯域スイッチ	パス、カット (下) 側
TILTボリューム	-6dB (減衰) 側	利得調整ボリューム	-10dB (減衰) 側
帯域切換スイッチ	10~55MHz (下) 側	出力ATTスイッチ	-4dB、-12dB (上) 側

上り帯域の調整は、必ず管轄ケーブルテレビ事業者の了解のもとで行なってください。
※テスト信号発生器が必要になります。
また、テスト信号のレベルは使用するシステムの伝送損失 (分岐、分配、同軸ケーブル、壁面端子等) に違いがあります。テスト信号のレベルおよび周波数については加入エリア管轄ケーブルテレビ事業者に確認をお願いします。
他の帯域の結線と調整が完了していることを確認してください。

〔入力調整〕

入力調整方法は2種類あります。下記、調整方法1または調整方法2のいずれかの方法で入力レベルを設定してください。

調整方法1
壁面端子へ適正に設定されたテスト信号を入力し、スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカをこの製品の入力モニタ端子に接続します。

調整方法2
この製品の上り調整用入力端子 (注1) へ適正に設定されたテスト信号を入力し、スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを入力モニタ端子に接続します。

上側テスト信号の入力モニタレベルが60dB μ Vになるよう入力ATTスイッチで調整してください。
調整後、上り帯域スイッチで増幅側に設定してください。

(dB μ V)

60

〔出力調整〕

出力モニタにスペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを接続し、出力モニタレベルが90dB μ Vを超えないようにTILT、利得調整、出力ATTを調整してください。
また、流合雑音を軽減するために30MHzより低い周波数帯域を使用しない場合は、帯域切換スイッチを30~55MHz側に切換えてください。

※カスケード接続の場合、後段 (ヘッドエンド側) の上り入力レベルが入力ATTで調整しきれない場合は、前段 (端末側) のTILT、利得調整、出力ATTで調整してください。

(dB μ V)

90

注1) 上り調整用入力端子に入力される信号は、20dB減衰した後、上り回路に混合されますので上り入力端子に到達するレベルより20dB高いレベルを入力してください。
※入力モニタ端子は入力レベル調整後のレベルから20dB低いレベル、出力モニタ端子は出力レベルから20dB低いレベルを出力します。
定格運用時は、本体に記載されているレベルとなります。
※上り調整方法は管轄ケーブルテレビ事業者により異なることがありますので詳細は加入エリアの管轄ケーブルテレビ事業者へ確認をお願いします。

施工説明書

調整方法のつづき

<デジタル衛星放送出力レベル確認方法(スペクトラムアナライザ使用)>

- デジタル信号レベルの確認は、デジタル対応のレベルチェッカまたは、チャンネルパワーの測定できるスペクトラムアナライザで測定確認してください。
- チャンネルパワー等の機能のないスペクトラムアナライザでデジタル信号を測定する場合は、それぞれ次の測定方法により確認してください。

<地上デジタル放送の場合>

- ①スペクトラムアナライザのセンター周波数を、各チャンネルの中心周波数に合わせます。
- ②スペクトラムアナライザを右のように設定します。
- ③中心周波数のレベルをスペクトラムアナライザで測定します。
- ④測定したレベルに補正值(RBW:1MHzの場合7.5dB)を加算した値が、その信号のレベルとなります。

周波数スパン (SPAN)	10MHz
分解能帯域幅 (RBW)	1MHz
ビデオ帯域幅 (VBW)	1kHz

注) 帯域内に大きなレベル差があったりノイズの影響が考えられるような受信状況の場合、測定誤差が大きくなります。
このような場合は、複数ポイントを測定し、その平均値を信号レベルとしてください。

<BS/CSデジタル放送の場合>

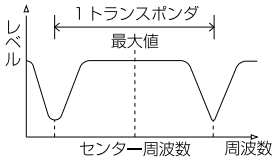
- ①スペクトラムアナライザのセンター周波数を測定する信号(1トランスポンダ)の中央に合わせます。
- ②スペクトラムアナライザを次のように設定します。

周波数スパン (SPAN)	50MHz
分解能帯域幅 (RBW)	1MHz
ビデオ帯域幅 (VBW)	300Hz

- ③信号の最大レベルをスペクトラムアナライザで測定します。
- ④測定したレベルに補正值(CSデジタル信号 15dB、BS・110度CSデジタル信号 16.3dB)を加えた値が、その信号のレベルとなります。

また、分解能帯域幅(RBW)を100kHz、10kHzで測定したときの補正值は右表をご参照ください。
注1) 低いレベルのデジタル信号をスペクトラムアナライザで測定する場合には、ノイズの影響などで測定誤差が大きくなります。このような場合は、複数ポイントを測定し、その平均値を信号レベルとしてください。

注2) スペクトラムアナライザの機種によってわずかに補正值が異なる場合があります。



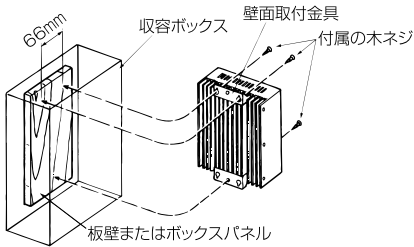
		分解能帯域幅 (RBW)		
		1MHz	100kHz	10kHz
補正值	CSデジタル (dB)	15	25	35
	BS・110度CSデジタル (dB)	16.3	26.3	36.3

RBWを変えたときの値が大きく異なる場合は、誤差が大きいと考えられます。

取付方法

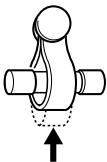
<増幅器の取付け>

- 図のように板壁または収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ2本で取り付け、増幅器を掛けてください。
次に残りの木ネジ1本で増幅器の下側を固定し、しっかりと取り付けてください。
- 収容ボックスは放熱を施した外形寸法600×800×250mm以上のものを使用してください。
- 天井や熱のこもる場所への取り付けは避け、必ず入出力端子が下向きになるように増幅器本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。



<予備ヒューズの取りはずし>

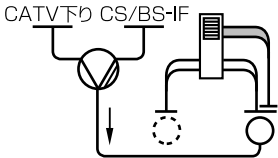
- 予備ヒューズの取りはずしは右図のように折り曲げ部を押し、ホルダ部を広げて、取りはずしてください。
- ヒューズ交換時は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



<入力切換>

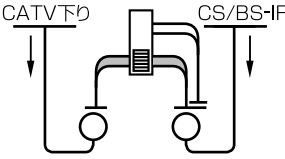
CS/BS-IFとCATV下りの混合入力でご使用の場合

スイッチは上側(混合入力)にセットしてください。



CS/BS-IFとCATV下りを別々の入力でご使用の場合

スイッチは下側(別入力)にセットしてください。



<電源の供給>

- 電源の供給は、必ず取付工事が終わって、すべてのケーブルが正確に接続されていることとアース端子が接地されていることを確認してから行なってください。電源の供給と同時にこの製品のパイロットランプが点灯します。
- この製品には、電源スイッチがありません。電源コードのプラグをAC100Vコンセントに差し込むことにより、電源が供給されます。
- 使用時に異常が生じた場合は、ただちに電源への供給を止め、原因を確かめてください。

保証について

- この製品の保証期間は、お引き渡しの日から2年間です。保証期間内に取扱説明書記載事項に従った正常な使用状態で故障した場合、ご購入店または裏表紙のDXアンテナ各営業所にお申し付けください。ただし、下記の場合は保証期間内でも有償修理となります。
- ①日本国以外で使用した場合の不具合。②住宅用途以外で使用した場合の不具合。③ユーザーが適切な使用、維持管理を行わなかったことに起因する不具合。④メーカーが定める施工説明書等に基づかない施工、専門業者以外による移動・分解などに起因する不具合。⑤建築躯体の変形など住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合、塗装の色あせ等の経年変化または使用に伴う摩耗などにより生じる外観上の現象。⑥海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の空気環境に起因する不具合。⑦ねずみ、昆虫などの動物の行為に起因する不具合。⑧火災・爆発事故、落雷・地震・噴火・洪水・津波等天変地異または戦争・暴動等破壊行為による不具合。⑨消耗部品の消耗に起因する不具合。⑩電気の供給トラブル等に起因する不具合。⑪瑕疵に起因して住宅部品その他の財物の使用ができなくなったことによって生じた不具合。
- 生産中止後の取替えパーツ(ヒューズ:ミゼット耐ラッシュ型 125V T3A (3A))の供給可能な期間は10年です。

詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記のDXアンテナ各営業所をご利用ください。

札幌支店 TEL.(011)822-1251(代)	新潟営業所 TEL.(025)276-2166(代)	三重出張所 TEL.(059)226-1643(代)	高松営業所 TEL.(087)868-1222(代)
旭川出張所 TEL.(0166)37-5830(代)	茨城営業所 TEL.(029)826-5341(代)	金沢支店 TEL.(076)261-9988(代)	松山営業所 TEL.(089)925-3826(代)
東北支店 TEL.(022)243-2141(代)	千葉支店 TEL.(043)253-1121(代)	富山営業所 TEL.(076)422-7878(代)	山陰出張所 TEL.(0853)24-2343(代)
盛岡出張所 TEL.(019)636-1581(代)	木更津出張所 TEL.(0438)23-6281(代)	大阪支店 TEL.(06)6304-5651(代)	福岡支店 TEL.(092)541-0168(代)
郡山出張所 TEL.(024)921-7131(代)	柏出張所 TEL.(04)7192-1681(代)	堺営業所 TEL.(072)278-5311(代)	北九州営業所 TEL.(093)922-6556(代)
東京支店 TEL.(03)3526-5402(代)	静岡営業所 TEL.(054)281-0141(代)	京都営業所 TEL.(075)382-6141(代)	長崎出張所 TEL.(095)842-0780(代)
多摩営業所 TEL.(042)572-4911(代)	浜松営業所 TEL.(053)461-6885(代)	神戸支店 TEL.(078)579-8550(代)	大分営業所 TEL.(097)504-7799(代)
横浜支店 TEL.(045)651-2557(代)	中部支店 TEL.(052)919-6531(代)	姫路出張所 TEL.(079)283-5920(代)	熊本営業所 TEL.(096)325-0711(代)
厚木出張所 TEL.(046)225-6102(代)	松本営業所 TEL.(0263)27-7801(代)	広島支店 TEL.(082)237-5331(代)	南九州営業所 TEL.(099)267-8211(代)
埼玉支店 TEL.(048)652-3311(代)	豊橋出張所 TEL.(0532)69-2370(代)	岡山営業所 TEL.(086)245-2948(代)	沖縄営業所 TEL.(098)874-6202(代)
宇都宮営業所 TEL.(028)659-1100(代)			

DXアンテナ株式会社

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL.(078)682-0001(代) 東京支社/〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目11番4号 ストークビル長崎 TEL.(03)3341-4569(代)
カスタマーセンター TEL.(078)682-0455 受付時間 9:30~12:00/13:00~17:00(土曜・日曜・祝日および夏季休暇・年末年始は除く)
ホームページアドレス http://www.dxantenna.co.jp/